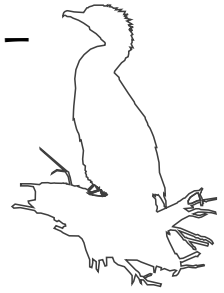


—カワウを通して野生生物と人との共存を考える (その10)—

あたらしい風♪



企画代表者 高木憲太郎 (NPO 法人バードリサーチ)

カワウの自由集会も今回で10回目、ちょっとうれしい数字です。記念すべき10回目のテーマは、「あたらしい風」。カワウを研究している院生に、その研究の話をしてもらうことにしました。そう、まさに最新。途中経過だったりもしますが、その分研究の背景や計画についてギッチリ話をしてもらうつもりです。

ひとつはDNAによる研究です。急速に個体数を増加させているカワウですが、個体数が全国で3000羽という時期を経験しています。表面的に個体数が多くなっていても遺伝的な多様性がなければ、感染症などの流行に対して弱くなります。日本のカワウは減少期にその遺伝的多様性を消失したのでしょうか？ちょっと長めに話をしてもらう予定です。2つめは、2歳以上のカワウの年齢査定の方法の話です。年齢構成や年齢による行動の違いなどがわかるようになると研究テーマが広がるので期待しています。最後の発表は、愛知県の餌環境の異なるコロニー間で孵化時期やクラッチサイズなどを比較した研究です。研究が進めば、食害防除などの対策をした時に、繁殖にどんな影響があるのかということまでわかってくるのでしょうか？関東でも同じような調査があるので、比較してみるのも面白そうです。

個々別々の話題ですが、研究が進めばカワウの生態の解明だけでなく、保護管理にも役立つ成果が得られてくると思います。聞き手それぞれに興味の中心も違うと思いますが、どこか接点を見出して議論に加わってもらえたらと思います。

演題(予定)

■カワウの遺伝的多様性

北海道大学 大学院環境科学院 修士課程2年 石垣麻美子

日本各地からDNAサンプルを集めて、遺伝的多様性の分析をしています。カワウは1970年代に個体数が激減した経緯があります。日本のカワウ個体群の遺伝的多様性は、過去のボトルネック効果により失われているのか？海外の研究事例と比較しながら紹介します。

■カワウの年齢査定

東京大学 生物多様性科学研究所 修士課程1年 熊田那央

カワウの年齢査定法はまだありませんが、年齢を知るとは、基礎的情報としてだけでなく、今後のカワウの個体群管理においても重要な情報の一つになると考えられます。この発表では、カワウの年齢査定法として私が試みている内容とその進捗状況を説明します。また年齢査定的重要性や、鳥類の年齢査定の先行研究の紹介などしたいと思います。

■異なった餌環境におけるカワウの繁殖生態

北海道大学大学院 水産科学院海洋生態学分野 博士後期課程2年 井上裕紀子

愛知県では、沿岸近くのコロニーの個体は海産性の魚類を、内陸のコロニーの個体は河川性の魚類をそれぞれ摂餌しています。そこで、餌環境の異なる4つのコロニー間で、ヒナに給餌される餌、ふ化時期、クラッチサイズ、巣立ち率を比較することにより、餌環境と親の繁殖における投資配分の関係を考察したいと思います。